

1月 5日(日) ショートメッセージ

聖書 エレミヤ書 31章15節～17節 (旧約 1235頁)

メッセージ 「あなたの未来に希望がある」

あなたの未来には希望がある、と主は言われる。息子たちは自分の国に帰って来る。

(エレミヤ書 31章17節)

(1) 教会暦では1月6日の公現日までがクリスマス期間ですが、本日は新年最初の礼拝です。新しい年も聖書のみ言葉と共に歩むことが出来ますようお祈りいたします。

12月に引き続き、1月も日本基督教団聖書日課から聖書箇所を選びました。

本日の新約の聖書日課のうち、福音書はマタイによる福音書2章13節～23節が選ばれ、旧約の聖書日課はエレミヤ書の預言が選ばれています。

(2) マタイによる福音書2章13節～23節は、東の方から来た占星術の学者たちが、生まれたばかりのイエス様のもとを訪れた物語に続く箇所です。ヘロデ王は学者たちに、自らも拝みに行くから幼子を見つけたら知らせしてくれと頼んでいましたが、それは嘘でした。ヘロデ王は自らの立場を守るために、今のうちに幼子を見つけて殺害しようと考えていたのです。

しかし、神はそのもくろみを打ち砕きました。夢を通して学者たちに、ヘロデのところに戻るなど伝えたのです。さらに神は主の天使をヨセフの夢の中に送り、エジプトへ避難させます。ヘロデは学者たちが戻ってこないことに怒り、あろうことかベツレヘムとその周囲一帯の2才以下の子どもたちのいのちを一人残らず奪いました。この出来事を聖書は、預言者エレミヤの預言が実現したと言います。ここで引用されている預言が本日の日課の箇所です。

エレミヤの預言は何百年と語り継がれて

きた預言です。エレミヤが語った預言は、創世記35章に登場するラケルの物語をもとに嘆きがあらわされています。ラケルが葬られているというラマで、息子たちから引き離されて葬られているラケルの嘆きの声が聞こえる。彼女たちの嘆きは、人から慰められることを拒むほど深い。ラケルの嘆きは、エレミヤの預言では、息子たちを兵士に取られた母たちの嘆きと、マタイ福音書では、ベツレヘムで子を奪われた母たちの嘆きと重ねられています。

しかし、エレミヤ書の預言の方では、この後、神自らが母たちの嘆きに慰めの言葉を伝えます。神は、「あなたの苦しみは報いられる」「息子たちは敵の国から帰ってくる」(16節)と伝え、「あなたの未来には希望がある」(17節)と伝えます。

(3) いかなる慰めを拒むほどの嘆きの中にある時、またその嘆きを前にした時、私たちは嘆きの深さに耐えられず立ちすくんでしまいます。「あなたの未来には希望がある」との言葉は、安易な慰めにしか受け取られないかもしれません。しかし、神はこの言葉をかけ続けて下さっている。今は耳を塞ごうとも、今は心を閉ざそうとも、いつか神のこの言葉に慰められる時が来る。祈りつつその日を待ち望みたいと思います。と同時に、今この世界では、戦争によって、悪政によってこの深い嘆きが日々量産されている現実にも目を向けましょう。平和への祈りと願いがなお深められますよう祈ります。(多田玲一牧師)